

おサイフケータイ、ガラパゴス脱出なるか

◆フェリカチップがiPhone 7に搭載

2016年7月に行われた近距離通信の規格を定めるNFC(Near Field Communication) Forumで、これまでのType-A、Type-Bに加えてType-F (FeliCa; フェリカ) も国際標準規格として認定された。日本市場では一部のアンドロイドOS版スマホにはフェリカが搭載されていたが、4割以上のシェアを占めるiPhoneには搭載されておらず、おサイフケータイなどの機能が十分活用されていなかった経緯があった。9月に発売されたiPhone7にはフェリカが搭載され、10月からは日本でもアップルペイのサービスが開始され、同決済サービスに登録したクレジットカードを利用して、JR東日本のスイカの電子マネーサービスと駅の改札を通過できるモバイルスイカサービスなどがようやく利用できるようになった。

◆17年はアップルとグーグルが日本を戦場にスマホ決済で競い合う年に

アップルは中国で既にアップルペイのサービスを展開しているが、利用者はあまり伸びていない。中国のモバイル決済市場は、個人間のやり取りも含まれるため15年108兆元(約1,700兆円)という巨大市場であるが、「アリペイ」などがスマホ決済による市場をほとんどおさえてしまっている。また国産スマホメーカーの成長に押され、iPhone自体のシェアも5位に後退している。そのため4割以上のシェアを持つ日本のスマホ市場とその決済市場(15年決済額 約2,900億円)の重要性が相対的に高まったこともフェリカ導入につながったといえよう。

アップルに対して、グーグルも日本で同様の「アンドロイドペイ」を展開する予定で、両者の競争によるサービス向上も期待できそうだ。日本の電子マネーは、01年にJR東日本がフェリカを搭載したスイカの交通系サービスを開始したことに始まる。海外ではオーバースペックともいえる1分間に60人が改札を通過できる処理性能など、日本独自の厳しい条件が要求され、そのコスト高のため国際標準規格となっていなかった。日本以外では香港の「オクトパスカード」に採用されたくらいでガラパゴス化していたが、アップルとグーグルがフェリカを採用したことで、17年は海外展開への道を開く年となるかもしれない。 【森山博之】